



決算説明会資料

2022年12月期 第2四半期

株式会社グローバルダイニング（スタンダード 7625）

August 5th, 2022

GLOBAL-DINING INC.

I. 業績サマリー

損益計算書の概要（連結）

連結	2022年12月期 第2四半期		2021年12月期 第2四半期		増減	
売上高	4,593		4,714		▲121	▲2.6%
売上原価	4,086	88.9%	3,798	80.6%	287	+7.6%
売上総利益	507	11.1%	916	19.4%	▲408	▲44.6%
販管費	485	10.6%	456	9.7%	29	+6.4%
営業利益	21	0.5%	459	9.8%	▲438	▲95.2%
経常利益	69	1.5%	553	11.7%	▲483	▲87.4%
当期純利益	55	1.2%	587	12.5%	▲531	▲90.5%
1株当たり 当期純利益	5円40銭		57円03銭			

2019年12月期 第2四半期			増減	
	4,683		▲89	▲1.9%
	4,219	90.1%	▲133	▲3.2%
	463	9.9%	43	+9.4%
	468	10.0%	16	+3.6%
	▲5	▲0.1%	27	-
	26	0.6%	43	+165.4%
	7	0.2%	48	+681.9%
	0円70銭			

(単位：百万円)

期中平均株数（単位：千株） 為替レート
 2022/6/30: 10,361 USD/JPY 136.68
 2021/6/30: 10,308 USD/JPY 110.58
 2019/6/30: 10,224 USD/JPY 107.79

●売上高

[国内] 前年対比：▲12.6% 2019年対比：▲21.3%

店舗数増減の影響もあるが、オミクロン株の感染急拡大、競合店の営業再開等により、前年対比・2019年対比で減収。

[米国] 前年対比：+25.2% 2019年対比：+277.3% ※USドルベース

前期の一時休業の影響、屋外営業の継続やナイトクラブ営業等の好調により、前年対比・2019年対比で増収。

●コスト

[国内] 売上減少による労務費率悪化、電気代・ガス代の増加、新規出店費用、採用費の増加等の影響で売上原価率は悪化。

[米国] 売上原価率は前年と同水準をキープ。

●その他

[国内] 商業施設店舗における新型コロナウイルス感染拡大防止協力金の支給により、「協力金収入(営業外収益)」62.2百万円を計上。
 円安ドル高の影響により、外貨建借入金(USドル)の評価替えて「為替差損(営業外費用)」25.9百万円を計上。

会社別実績概要

国内	2022年12月期 第2四半期		2021年12月期 第2四半期		増減		2019年12月期 第2四半期		増減	
	売上高	3,508	100.0%	4,013	100.0%	▲505	▲12.6%	4,456	100.0%	▲948
売上原価	3,199	91.2%	3,225	80.4%	▲26	▲0.8%	3,969	89.1%	▲770	▲19.4%
売上総利益	309	8.8%	787	19.6%	▲478	▲60.8%	487	10.9%	▲177	▲36.5%
販管費	365	10.4%	395	9.8%	▲29	▲7.4%	438	9.8%	▲72	▲16.5%
営業利益	▲56	▲1.6%	392	9.8%	▲449	-	48	1.1%	▲105	-
経常利益	▲11	▲0.3%	423	10.6%	▲435	-	79	1.8%	▲91	-
当期純利益	▲18	▲0.5%	398	9.9%	▲417	-	60	1.4%	▲78	-

(単位：百万円)

(単位：百万円)

米国	2022年12月期 第2四半期		2021年12月期 第2四半期		増減		2019年12月期 第2四半期		増減	
	売上高	7,940	100.0%	6,342	100.0%	1,598	25.2%	2,104	100.0%	5,835
売上原価	6,487	81.7%	5,177	81.6%	1,309	25.3%	2,319	110.2%	4,167	179.6%
売上総利益	1,452	18.3%	1,164	18.4%	288	24.8%	▲215	▲10.2%	1,667	-
販管費	876	11.0%	552	8.7%	323	58.6%	284	13.5%	591	207.6%
営業利益	576	7.3%	611	9.6%	▲35	▲5.8%	▲500	▲23.8%	1,076	-
経常利益	596	7.5%	1,172	18.5%	▲576	▲49.1%	▲496	▲23.6%	1,092	-
当期純利益	543	6.8%	1,709	26.9%	▲1,165	▲68.2%	▲496	▲23.6%	1,039	-

(単位：千USドル)

(単位：千USドル)

参考（当時の為替レートでの日本円換算）

米国	2022年12月期 第2四半期		2021年12月期 第2四半期		増減		2019年12月期 第2四半期		増減	
	売上高	1,085	100.0%	701	100.0%	383	54.7%	226	100.0%	858
売上原価	886	81.7%	572	81.6%	314	54.9%	250	110.2%	636	254.6%
売上総利益	198	18.3%	128	18.4%	69	54.2%	▲23	▲10.2%	221	-
販管費	119	11.0%	61	8.7%	58	96.1%	30	13.5%	89	290.1%
営業利益	78	7.3%	67	9.6%	11	16.5%	▲53	▲23.8%	132	-
経常利益	81	7.5%	129	18.5%	▲48	▲37.1%	▲53	▲23.6%	134	-
当期純利益	74	6.8%	188	26.9%	▲114	▲60.7%	▲53	▲23.6%	127	-

(単位：百万円)

(単位：百万円)

4 ※上記は連結修正前の会社別数値です。

貸借対照表の概要 (連結)

	2022年12月期 第2四半期		2021年12月期 通期		増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
流動資産	1,873	25.4%	2,475	32.2%	▲602	▲24.3%
現預金	1,359		1,850		▲491	
売掛金	243		300		▲56	
原材料及び貯蔵品	152		178		▲26	
商品及び製品	9		14		▲5	
前払費用	99		117		▲17	
未収入金	8		13		▲4	
その他	0		0		▲0	
固定資産	5,514	74.6%	5,209	67.8%	305	5.9%
有形固定資産	4,402	59.6%	4,130	53.8%	271	6.6%
建物・構築物	1,318		1,245		73	
工具器具	221		192		28	
土地	2,811		2,669		142	
建設仮勘定	43		14		29	
リース資産	7		9		▲1	
無形固定資産	0	0.0%	1	0.0%	▲0	▲27.2%
投資その他の資産	1,110	15.0%	1,077	14.0%	33	3.1%
投資有価証券	20		17		3	
長期前払費用	17		18		▲0	
差入保証金	1,071		1,041		30	
総資産	7,387	100.0%	7,685	100.0%	▲297	▲3.9%

	2022年12月期 第2四半期		2021年12月期 通期		増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
負債合計	3,905	52.9%	4,541	59.1%	▲636	▲14.0%
流動負債	1,766	23.9%	2,229	29.0%	▲463	▲20.8%
買掛金	227		288		▲60	
短期借入金	0		208		▲208	
1年内返済予定長期借入金	571		384		186	
未払金	68		133		▲64	
未払費用	561		595		▲34	
預り金	232		240		▲7	
未払法人税等	6		27		▲20	
未払消費税	36		296		▲260	
その他	61		55		6	
固定負債	2,138	29.0%	2,312	30.1%	▲173	▲7.5%
長期借入金	1,413		1,580		▲166	
長期リース債務	71		82		▲11	
退職給付に係る負債	45		43		1	
繰延税金負債	34		33		0	
資産除去債務	573		571		2	
純資産	3,482	47.1%	3,143	40.9%	338	10.8%
資本金	43		42		1	
資本剰余金	2,143		2,141		1	
利益剰余金	1,103		1,059		43	
為替換算調整勘定	171		▲116		287	
その他	21		15		5	
負債・純資産合計	7,387	100.0%	7,685	100.0%	▲297	▲3.9%

(単位：百万円)

[総資産]

現預金の営業以外の主な収支は、借入返済で214.0百万円の減少、消費税の納付で406.8百万円の減少。
建物・構築物、工具器具は減価償却の影響で減少したが、国内の新規・改装出店、米国子会社の急激な為替変動等により増加。
土地は、為替変動により米国分が増加。建設仮勘定は、国内の新規出店により減少したが、米国の新規出店準備等により増加。
差入保証金は、米国の新規出店契約により増加。

[負債・純資産]

短期借入金は、通常返済による減少と長期借換による減少で残高ゼロとなる。
長期借入金(1年内返済予定含む)は、通常返済による減少以外では、短期借入金の長期借換で増加。
未払消費税は、消費税納付により大きく減少。
純資産は、当期純利益による利益剰余金増加の他、急激な為替変動により米国の連結手続きにおいて為替換算調整勘定が大幅に増加。

キャッシュ・フローの概要（連結）

	2022年12月期 第2四半期	2021年12月期 第2四半期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲159	950	▲1,109
税金等調整前四半期純損益	69	594	▲524
減価償却費	102	82	20
債務免除益	0	▲59	59
受取還付金	0	▲48	48
協力金収入	▲62	▲35	▲26
売上債権の増減額	59	▲23	83
たな卸資産の増減額	35	17	18
仕入債務の増減額	▲62	63	▲125
未払費用増減額	▲47	264	▲311
未払消費税増減額	▲263	75	▲338
利息の支払額	▲6	▲10	3
還付金の受取額	0	48	▲48
協力金の受取額	62	35	26
法人税等の支払額	▲34	▲54	20
その他	▲12	1	▲14
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲175	▲14	▲161
有形固定資産の取得による支出	▲144	▲76	▲68
保証金の回収による収入	0	102	▲102
保証金の差入による支出	▲30	▲10	▲20
その他	▲1	▲30	29
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲223	520	▲744
短期借入金の純増減額	▲208	▲26	▲182
長期借入れによる収入	200	683	▲482
長期借入金の返済による支出	▲206	▲140	▲66
その他	▲9	3	▲14
現金及び現金同等物に係る換算差額	67	3	63
現金及び現金同等物の増減額	▲491	1,459	▲1,951
現金及び現金同等物の期首残高	1,850	321	1,529
6 現金及び現金同等物の期末残高	1,359	1,781	▲421

●営業活動によるキャッシュフロー
前年比▲1,109百万円の**159百万円のキャッシュアウト**。

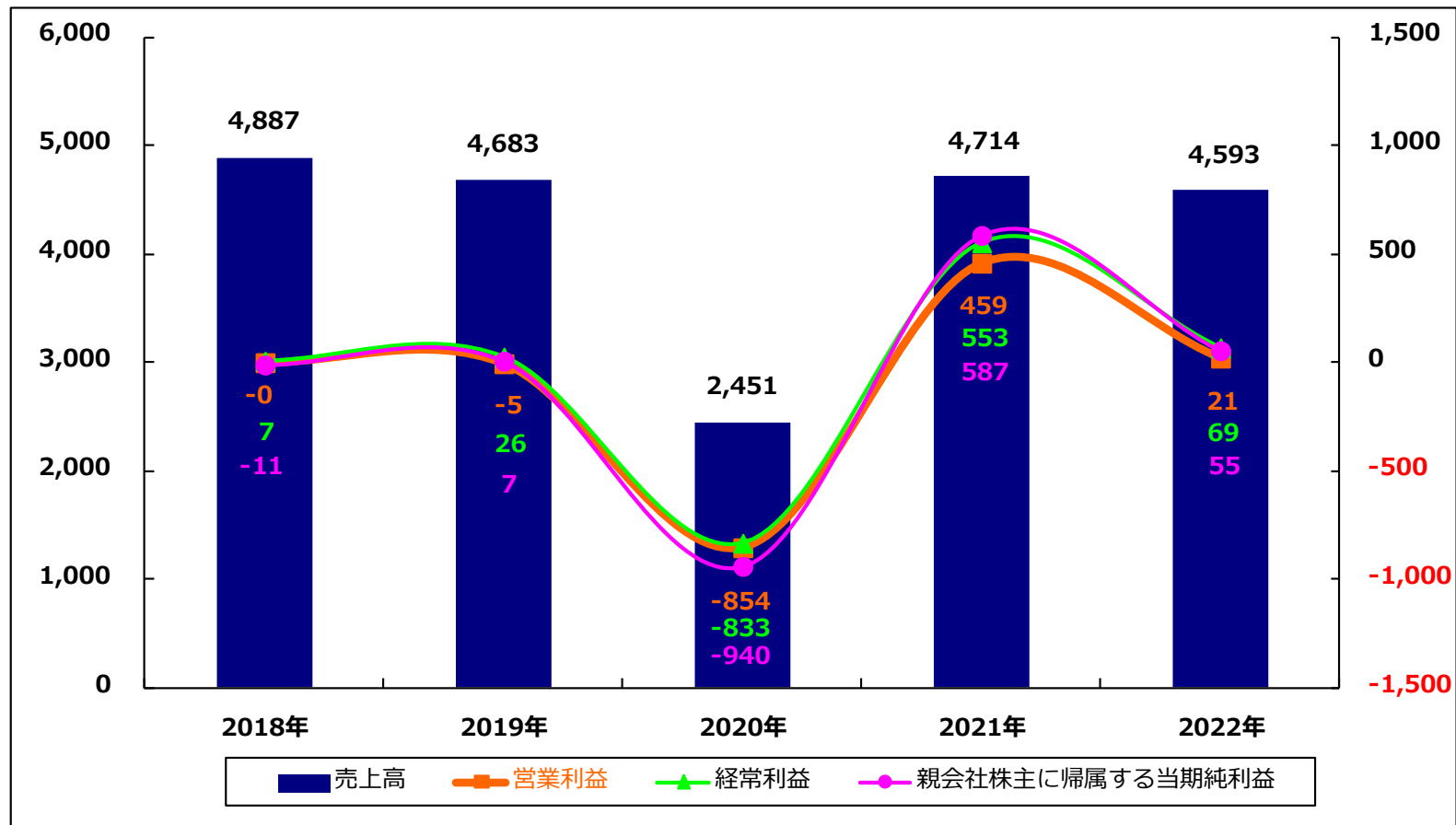
●投資活動によるキャッシュフロー
新規・改装出店や設備投資、米国の新規出店に伴う保証金差入等により、**175百万円のキャッシュアウト**。

●財務活動によるキャッシュフロー
短期借入金の長期借換があったが、通常の借入返済等で、**223百万円のキャッシュアウト**。

現金及び現金同等物は、**491百万円のキャッシュアウト**となり、期末残高は1,359百万円。

(単位：百万円)

過去5年間 売上高等主要数値の推移（第2四半期連結累計期間）



[2020年] 国内・米国ともに新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、売上高・利益ともに大幅減少。

[2021年] 国内売上高は、営業時間短縮等の要請がある中で通常営業(商業施設店舗を除く)を継続したことでコロナ前の水準近くまで回復。米国売上高は、屋外営業の好調や店内営業の再開で大幅に増加し、連結売上高はコロナ前の2019年と同水準の結果となった。連結最終損益は、米国の大規模な経済政策(PPP融資の返済免除、従業員雇用継続税額控除)等により大幅に増加。

[2022年] 国内売上高は、オミクロン株の感染急拡大や競合店の営業再開等により、前年対比・2019年対比ともに減少。米国売上高は、屋外営業の継続やナイトクラブ営業等の好調により、前年対比・2019年対比ともに増加。国内は売上減少やコスト増加の影響で赤字着地となったが、米国の業績好調と円安による好影響もあり、連結最終損益は黒字着地。

Ⅱ. 事業計画サマリー

2022年12月期 通期計画（連結） ※期初予想より変更なし

連結	2022年12月期		2021年12月期		増減		2019年12月期		増減	
	通期計画値		通期実績値				通期実績値			
売上高	8,102	100.0%	9,573	100.0%	▲1,471	▲15.4%	9,610	100.0%	▲1,508	▲15.7%
営業利益	106	1.3%	727	7.6%	▲621	▲85.4%	40	0.4%	65	164.6%
経常利益	156	1.9%	1,066	11.1%	▲909	▲85.3%	96	1.0%	59	61.8%
当期純利益	141	1.7%	1,046	10.9%	▲904	▲86.4%	▲331	▲3.4%	473	-
1株当たり 当期純利益	13円68銭		101円25銭				▲32円40銭			

期初想定為替レート USD/JPY 113.00

(単位：百万円)

●売上高

[国内] 2021年実績比 ▲16.6% 2019年実績比 ▲27.1%

新店舗オープンによる売上増加要因もあるが、コロナ禍のダメージによる世界的な経済停滞やインバウンド需要の低迷等により、2021年実績を大きく下回る見込み。

[米国] 2021年実績比 ▲7.8% 2019年実績比 +185.9% ※USドルベース

2021年12月期の好調要因である屋外営業を継続予定だが、保守的に見積もり2021年実績を下回る見込み。

●コスト

国内外共に減収想定のため売上原価率は悪化する見込み。

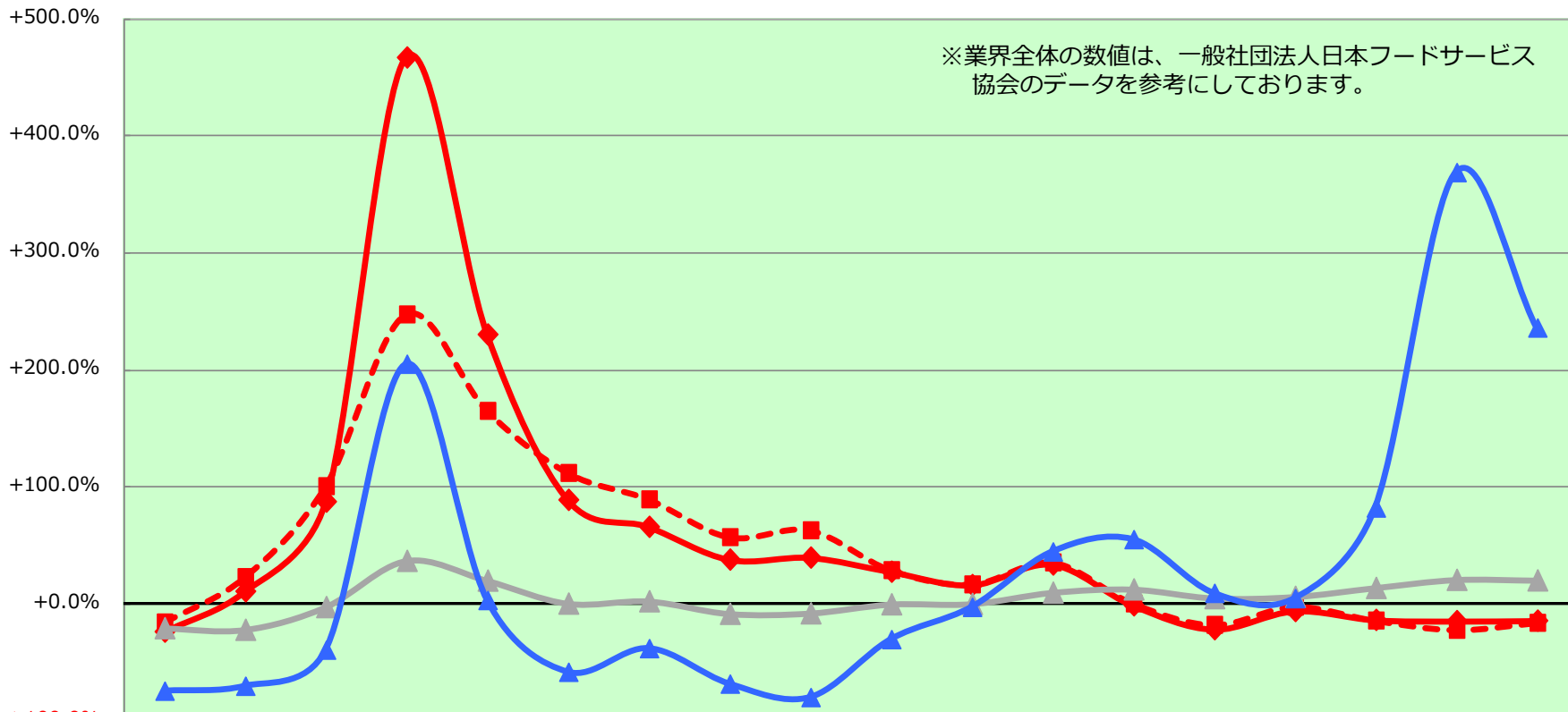
●その他

国内では商業施設店舗における新型コロナウイルス感染拡大防止協力金の計上を見込む。

国内外ともに減収想定ではあるが最終損益はそれぞれ黒字着地を想定。

Ⅲ. 2022年上期の概況

(国内) 売上高前年対比率 月次推移



	'21/1	'21/2	'21/3	'21/4	'21/5	'21/6	'21/7	'21/8	'21/9	'21/10	'21/11	'21/12	'22/1	'22/2	'22/3	'22/4	'22/5	'22/6
国内全店合計	▲23.9%	+10.6%	+87.3%	+467.4%	+230.4%	+88.8%	+65.8%	+37.7%	+39.4%	+27.4%	+15.9%	+33.5%	▲1.4%	▲21.9%	▲6.3%	▲13.9%	▲14.9%	▲14.5%
国内既存店合計	▲16.1%	+22.8%	+100.5%	+247.5%	+165.0%	+111.9%	+89.3%	+56.9%	+62.8%	+28.7%	+16.5%	+35.3%	+0.2%	▲18.1%	▲2.6%	▲14.4%	▲22.4%	▲16.4%
外食業界全体	▲21.0%	▲22.3%	▲2.9%	+36.7%	+19.8%	+0.1%	+2.1%	▲8.6%	▲8.2%	▲0.5%	▲0.2%	+9.5%	+12.2%	+4.8%	+5.9%	+13.5%	+20.4%	+19.9%
パブレストラン	▲74.9%	▲70.7%	▲39.7%	+204.9%	+2.7%	▲58.7%	▲38.5%	▲68.8%	▲80.4%	▲30.8%	▲3.2%	+44.3%	+54.8%	+8.8%	+4.3%	+81.9%	+368.9%	+235.9%

2022年12月期 第2四半期 国内店舗売上高前年比

全店 ▲12.6%

既存店 ▲11.6%

2022年 主な出退店

2月「タコファナティコ 渋谷」オープン

4月「LB8 (代官山)」閉店

「ゼスト キャンティーナ 代官山」オープン

●外部環境

- オミクロン株による感染急拡大で飲食店への営業自粛要請再開（2022/1/21~3/21）
- エネルギー価格高騰
- 急激な円安
- 物価上昇
- 段階的な入国者数の上限緩和

●国内

- コロナ禍で調達した短期借入金を順次長期に借換え、財政状態の安定化を図る
- 自粛要請解除後、競合増加で売上減少傾向あり、首都圏商業施設店舗は回復傾向に
- サービスコンテスト実施による人材発掘、入賞者が所属する店舗は業績好調
- 店長人材への教育を強化（マネジメント業務の定例化、日々の店舗オペレーションの徹底）
- 採用費が前年対比で増加（各社の人材募集再開による）
- 光熱費の節制と管理の徹底
- 物流コスト・効率化を鑑みた仕入れの見直し、代替品・メニュー変更、一部価格転嫁へ
- 業態変更や昨年出店の新店で一部苦戦が続く
- 営業時短命令をめぐる裁判は、当社の請求は棄却だが命令は違法、即日控訴へ

●米国

- 屋外営業の一時許可期限が6月末から9月末に延長、その後についても交渉継続中
- 4月1日付にて子会社COOをCEOに昇格（当社取締役兼務者）
- 急激な円安により連結業績（円換算）へ好影響
- 新店出店の決定（Downtown LAの中心、施設内に公園、広く美しいパティオ有り）

● 出店 & 業態変更

- 2月 1日 『タコ ファナティコ 渋谷』 を東京・渋谷センター街に出店
- 4月22日 『ゼスト キャンティーナ 代官山』 をオープン
※『L B 8 (ワインバー)』からの業態変更

● 閉店

- 4月 3日 『L B 8 (ワインバー)』 閉店

出店	+ 1
業態変更	+ 1
閉店	- 1
計	+ 1

店舗数計 4 6 (海外 2 含む)

2月1日 (火) グランドオープン
「タコ ファナティコ 渋谷」渋谷センター街に出店



- 【所在地】東京都渋谷区宇田川町32番7号 HULIC & New UDAGAWA
【席数 面積】24席 (約17坪)
【業態】手作り生地 (グルテンフリー) の本格タコス専門店 (※完全キャッシュレス店舗)
【特徴】中目黒、名古屋に続く3号店。オープンキッチンを取り囲んだ開放的なカウンター席で、最高品質の青とうもろこし粉を使った自家製生地の本格タコスと、プレミアムテキーラ&メスカル (約100種) をお楽しみいただけます。

4月22日(金) リニューアルオープン 「ゼスト キャンティーナ 代官山」

※『LB8』から業態変更



【所在地】東京都渋谷区代官山町16-2 八幡ビル1F・B1F

【席数 面積】1F 38席、B1F 30席 ※テラス席はペット同伴可

【業態】テックス・メックス料理

【特徴】契約満了・事業再編などでお台場店のみとなっていたゼストを渋谷区に復活。エルパソ(テキサス州)やサンタフェ(ニューメキシコ州)のキャンティーナ(居酒屋)を彷彿とさせる空間の中、新鮮な素材と手作りにこだわったテックス・メックス料理をお楽しみいただけます。



2022年上期 国内業態別業績

2022年12月期 第2四半期	合計
売上高	3,508
営業利益	▲56
営業利益率	▲1.6%
期末店舗数	44

ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
1,175	148	765	822	431	65	98	-
139	▲17	45	88	5	5	▲6	▲317
11.8%	▲12.0%	6.0%	10.7%	1.3%	8.6%	▲6.6%	0.0%
15	5	9	7	5	1	2	-

2021年12月期 第2四半期	合計
売上高	4,013
営業利益	392
営業利益率	9.8%
期末店舗数	40

ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
1,313	63	909	1,079	493	49	104	-
273	▲2	113	250	76	▲1	2	▲320
20.8%	▲3.2%	12.5%	23.2%	15.6%	▲2.8%	2.5%	0.0%
13	2	9	7	6	1	2	-

2019年12月期 第2四半期	合計
売上高	4,456
営業利益	48
営業利益率	1.1%
期末店舗数	46

ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
1,197	167	1,084	1,388	328	95	195	-
126	▲20	96	222	▲42	15	▲0	▲350
10.6%	▲12.0%	8.9%	16.0%	▲12.8%	16.6%	▲0.4%	0.0%
13	3	10	8	7	1	4	-

(単位：百万円)

【ラ・ボエム】好調の昨年から比べると減収減益だが、2019年対比で売上微減で営業利益では増加と健闘

【ゼスト】新規出店と業態変更により売上増も、出店費用と立ち上がり苦戦で減益

【モンスーン・権八】商業施設の影響もあり大幅に減収。インバウンド消滅もあり、2019年対比でも大きく減収減益。

【Dinner & LB】業態変更した『ステラート サパークラブ』の立ち上げ苦戦を『カフェ レガート』が安定した業績で黒字維持に貢献

【FC】3月までの施設の営業自粛により苦戦するも、4月以降に旅行需要回復により黒字化

※Dinner&LB：「ブラスリー タブローズ」「タブローズラウンジ」「カフェ レガート」「ステラート サパークラブ」「LB」「リグニス」

※FC＝フードコロシアム（那須）

※その他：「デカダンスデュ ショコラ」「バルティザンブレッド ファクトリー」の他、ウエディングサロンの売上高が含まれます。

※「タコ ファナティコ」はゼストに含んでおります。

2022年上期 海外（米国店舗別業績）

2022年12月期 第2四半期	合計
売上高	7,940
営業利益	576
営業利益率	7.3%

La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
2,954	4,985	0
433	1,019	▲876
14.7%	20.4%	-

2021年12月期 第2四半期	合計
売上高	6,342
営業利益	611
営業利益率	9.6%

La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
2,240	4,102	0
346	817	▲552
15.5%	19.9%	-

2019年12月期 第2四半期	合計
売上高	2,104
営業利益	▲500
営業利益率	▲23.8%

La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
477	1,626	0
▲114	▲101	▲284
▲23.9%	▲6.2%	-

(単位：千USドル)

- ・前年1月は約1か月間の営業停止期間があったものの、屋外営業の継続とDJ・ライブミュージック等のナイトクラブ営業の人气が定着し、25%の増収
- ・Downtown LAへの新店出店費用や本部スタッフ増員による人件費等のコストアップで前年対比で減益となるも、営業利益率は7.3%と健闘
- ・急激な円安で連結業績へのインパクト大

IV. 2022年下期の取り組み

国内（当社）

– 営業基盤の強化

✓ 人材採用・発掘力強化への取り組み（ホスピタリティ重視）

「料理・サービス・空間にこだわり、地域社会に“エンターテインメント（喜び）”を提供する」
「店舗で手作り・美味しさを追求し、たゆまぬ商品開発・改善をし続けることでブランディングを行う」

「人」がすべて

- 素晴らしい能力の発掘（現場のマネジメント層の採用・発掘力）
- 自己価値向上ができ、働きがいのある環境をつくり、優秀な人材を惹きつける
- Leaders create leaders（リーダーはリーダーをつくる）

◆教育の充実

- 合同会議での理念・方針の浸透、マネジメント層の能力向上に向けた各種ツールの整備・活用促進
- サービス・料理・ドリンク等の各種コンテストや料理・ワイン講習会の地道な継続と改良
⇒人材発掘の機会、能力向上（知識・技術）、競争による進化、モチベーションアップにつなげる

◆優秀な人材の採用・発掘に向けた環境整備の推進

- 学べる・体験・経験の場（店舗毎の独立採算制による経営者体験、フルサービス、デザートまで手作り）
- ユニークな人事制度と報酬体系（立候補制人事、実績主義のボーナスプログラム他）
- 本物志向や世界観を表現した内装、厨房設備の導入

✓ コスト管理の徹底、赤字店のテコ入れ

– 出店戦略の確立

- ✓ 既存業態を磨き上げ、首都圏で勝てる業態・勝てる立地を再検証し、重点的に探索
- ✓ 環境変化を捉えた住宅立地やミニターミナル立地の可能性を調査・研究

– 宿泊設備付き事業は「既存業態の集合」という位置付けで、調査・研究を継続

米国（子会社）

– 2店舗の10月以降の屋外営業許可の交渉継続

- ✓ 『ラ・ボエム』は通年の屋外営業許可を申請中
- ✓ 『1 2 1 2』はプロムナードの有料使用による継続を交渉中

– Downtown L Aの新店開業準備

- ✓ 広く美しいパティオを活かした店舗造り（アウトドア、エンターテインメント等）
- ✓ オープンは来夏を予定

– 子会社CEOが Downtown Santa Monica,Inc. の役員に就任（7月1日付）

- ※ 「Downtown Santa Monica,Inc.」とは、子会社店舗『1212』があるプロムナードを行政区域とし、その地域の活性化&経済的安定を目指して活動する民間非営利団体です。

參考資料

展開コンセプト (連結)

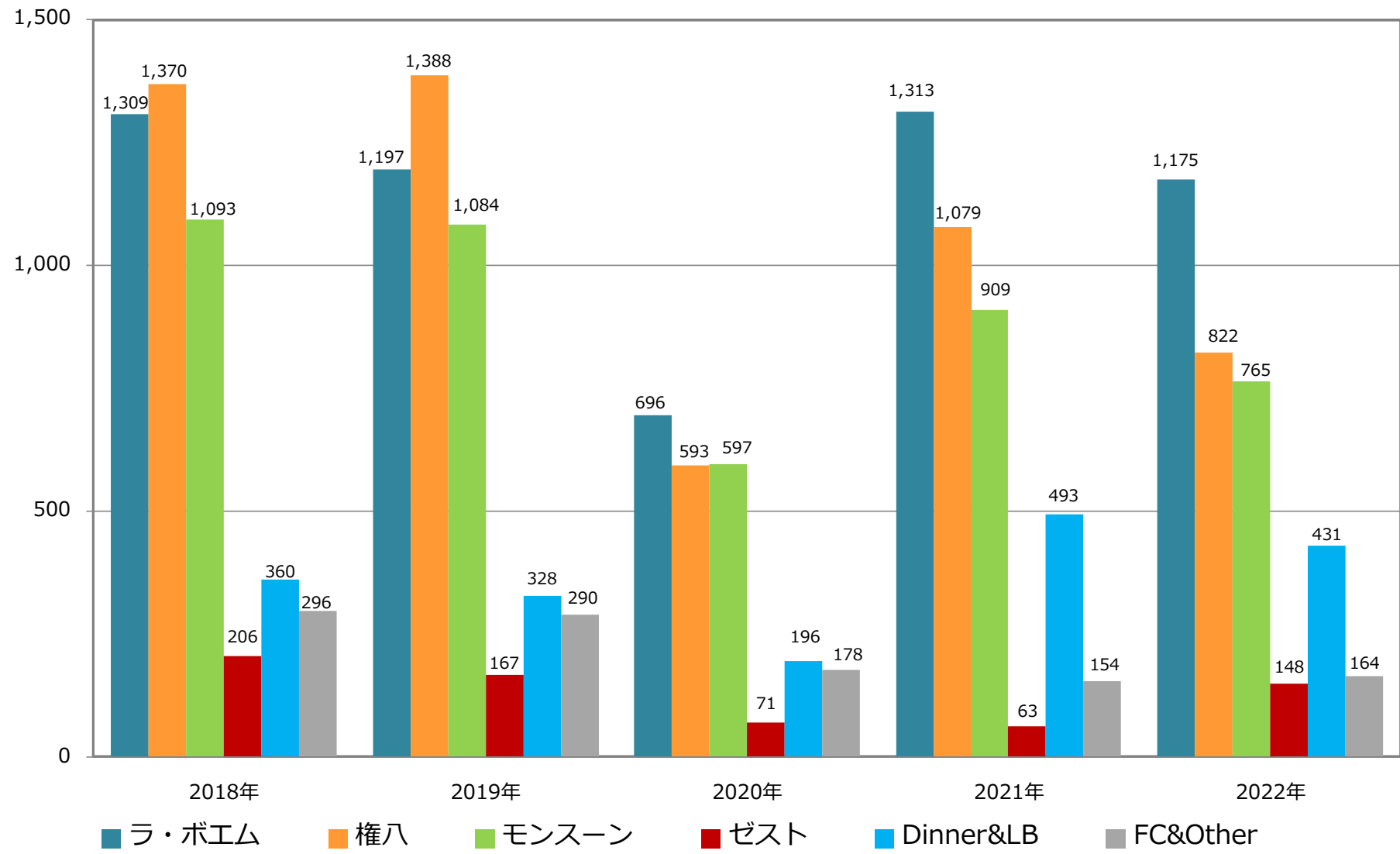
計46店舗 (2022.6月末)

カフェ ラ・ボエム	権 八	モンスーン カフェ	ゼスト キャンディーナ	ディナー店	※ F C ・ その他 業 態
   <p>イタリアン</p> <p>15店舗</p>	   <p>創作和食 & 寿司</p> <p>7店舗</p>	   <p>エスニック</p> <p>9店舗</p>	   <p>テックスメックス</p> <p>5店舗</p>	   <p>海外 (米国)</p> <p>6店舗</p>	   <p>海外 (米国)</p> <p>1212</p> <p>4店舗</p>
<p>※ 1,175万円</p>	<p>822百万円</p>	<p>765百万円</p>	<p>148百万円</p>	<p>835百万円</p>	<p>845百万円</p>
<p>※ 25.6%</p>	<p>17.9%</p>	<p>16.7%</p>	<p>3.2%</p>	<p>18.2%</p>	<p>18.4%</p>

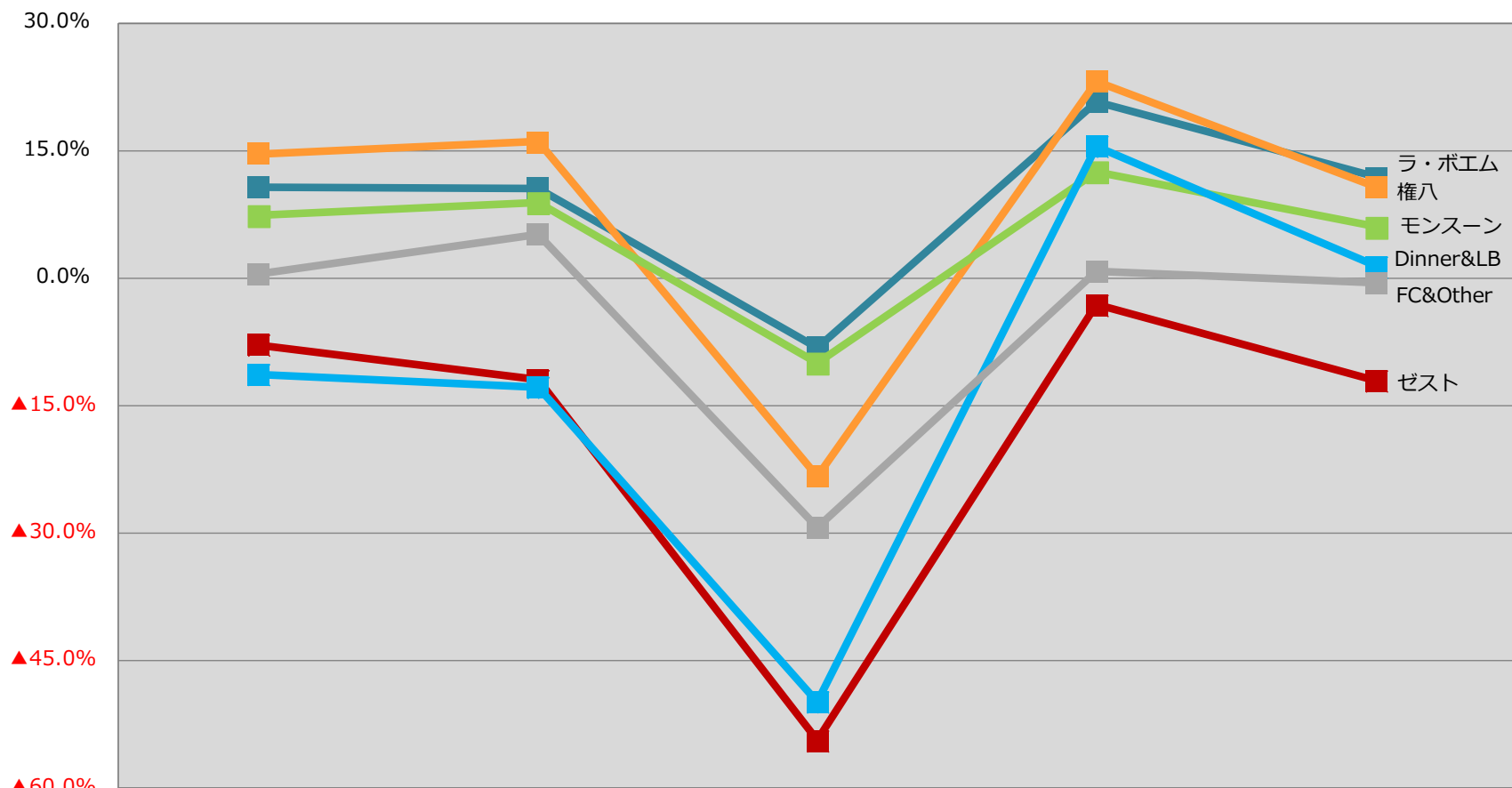
※コンセプトの「F C」とは、「FOOD COLOSSEUM (フードコート業態)」の略です。
 ※上記金額 & シェアは、2022年12月期第2四半期の連結売上高とそのシェア (%) を記載しております。

国内コンセプト別 売上高の推移 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)



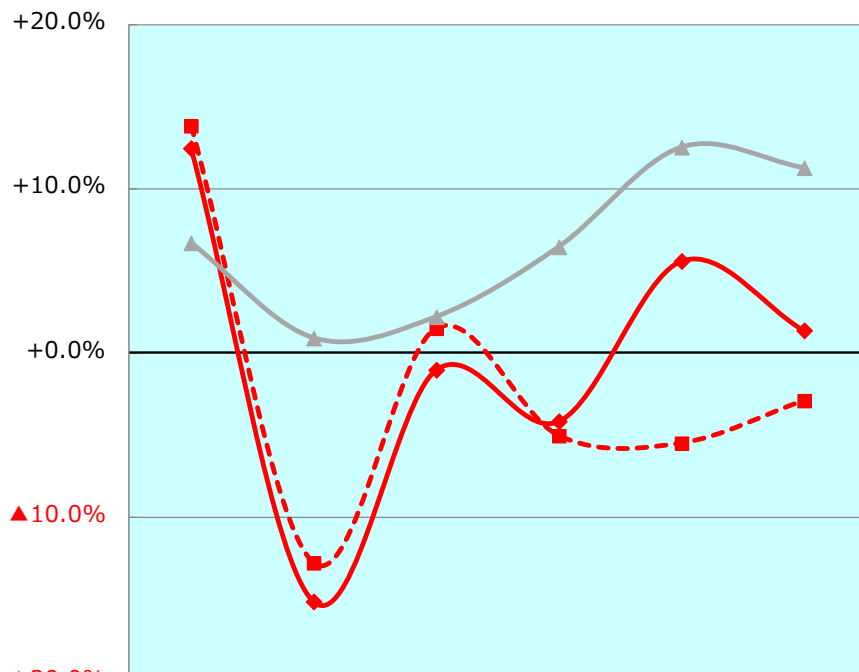
国内コンセプト別 営業利益率の推移 (第2四半期連結累計期間)



	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
ラ・ボエム	10.7%	10.6%	▲8.1%	20.8%	11.8%
権八	14.7%	16.0%	▲23.3%	23.2%	10.7%
モンスーン	7.4%	8.9%	▲10.0%	12.5%	6.0%
ゼスト	▲7.8%	▲12.0%	▲54.4%	▲3.2%	▲12.0%
Dinner&LB	▲11.3%	▲12.8%	▲49.8%	15.6%	1.3%
FC&Other	0.5%	5.2%	▲29.3%	0.8%	▲0.5%

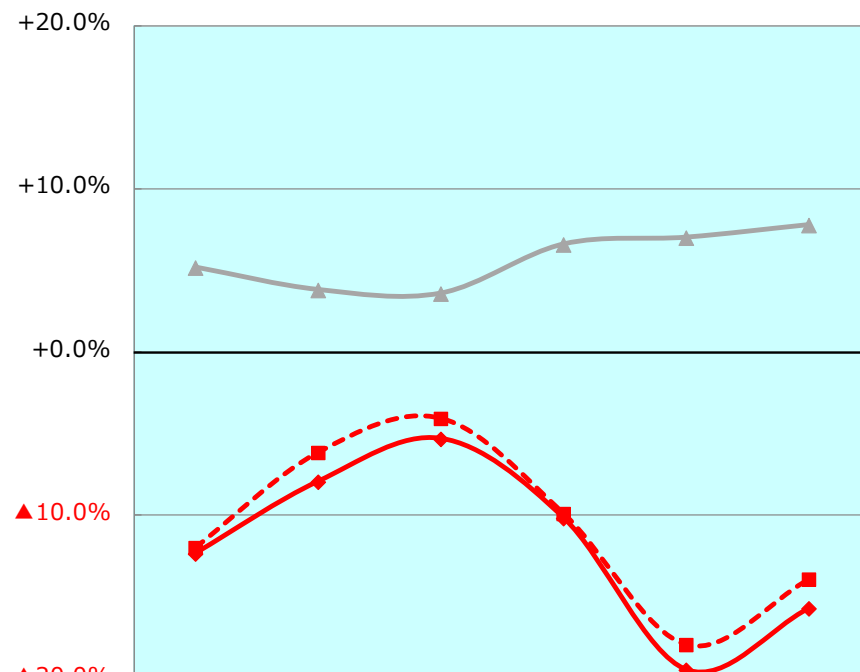
2022年上期 (国内) 客数と客単価の前年同期比推移

客数



国内全店合計	+12.5%	▲15.1%	▲1.0%	▲4.2%	+5.6%	+1.4%
国内既存店合計	+13.8%	▲12.8%	+1.5%	▲5.0%	▲5.5%	▲2.9%
外食業界全体	+6.7%	+0.9%	+2.2%	+6.5%	+12.5%	+11.3%

客単価



国内全店合計	▲12.3%	▲7.9%	▲5.3%	▲10.2%	▲19.4%	▲15.7%
国内既存店合計	▲12.0%	▲6.1%	▲4.0%	▲9.9%	▲17.9%	▲13.9%
外食業界全体	+5.2%	+3.8%	+3.6%	+6.6%	+7.0%	+7.8%

2022年12月期 第2四半期
 全店▲0.5% 既存店▲0.4%

2022年12月期 第2四半期
 全店▲12.2% 既存店▲11.2%

損益計算書概要 (国内)

2022年12月期 第2四半期		合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高	3,508		1,175	148	765	822	431	65	98	-
売上原価	3,199		1,013	161	704	719	419	57	104	18
売上総利益	309		161	▲12	61	103	12	7	▲5	▲18
販管費	365		22	5	15	15	6	2	0	298
営業利益	▲56		139	▲17	45	88	5	5	▲6	▲317
営業利益率	▲1.6%		11.8%	▲12.0%	6.0%	10.7%	1.3%	8.6%	▲6.6%	0.0%
期末店舗数	44		15	5	9	7	5	1	2	-
2021年12月期 第2四半期		合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高	4,013		1,313	63	909	1,079	493	49	104	-
売上原価	3,225		1,012	61	774	807	407	49	100	13
売上総利益	787		301	2	134	271	86	0	4	▲13
販管費	395		28	4	20	21	9	1	1	307
営業利益	392		273	▲2	113	250	76	▲1	2	▲320
営業利益率	9.8%		20.8%	▲3.2%	12.5%	23.2%	15.6%	▲2.8%	2.5%	0.0%
期末店舗数	40		13	2	9	7	6	1	2	-
2019年12月期 第2四半期		合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高	4,456		1,197	167	1,084	1,388	328	95	195	-
売上原価	3,969		1,050	181	966	1,147	359	77	193	▲7
売上総利益	487		146	▲14	118	241	▲31	17	1	7
販管費	438		19	5	21	18	11	2	2	357
営業利益	48		126	▲20	96	222	▲42	15	▲0	▲350
営業利益率	1.1%		10.6%	▲12.0%	8.9%	16.0%	▲12.8%	16.6%	▲0.4%	0.0%
期末店舗数	46		13	3	10	8	7	1	4	-

(単位：百万円)

※Dinner&LB：「ブラスリー タブローズ」「タブローズラウンジ」「カフェ レガート」「ステラート サパークラブ」「LB」「リグニス」

※FC＝フードコロシアム

※その他：「デカダンスデュ ショコラ」「バルティザンブレッドファクトリー」の他、ウエディングサロンの売上高が含まれます。

26 ※「タコファナティコ」はゼストに含んでおります。

損益計算書概要 (米国連結子会社)

2022年12月期 第2四半期	合計	La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
売上高	7,940	2,954	4,985	0
売上原価	6,487	2,521	3,966	0
売上総利益	1,452	433	1,019	0
販管費	876	0	0	876
営業利益	576	433	1,019	▲876
営業利益率	7.3%	14.7%	20.4%	-

2021年12月期 第2四半期	合計	La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
売上高	6,342	2,240	4,102	0
売上原価	5,177	1,893	3,284	0
売上総利益	1,164	346	817	0
販管費	552	0	0	552
営業利益	611	346	817	▲552
営業利益率	9.6%	15.5%	19.9%	-

2019年12月期 第2四半期	合計	La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
売上高	2,104	477	1,626	0
売上原価	2,319	591	1,727	0
売上総利益	▲215	▲114	▲101	0
販管費	284	0	0	284
営業利益	▲500	▲114	▲101	▲284
営業利益率	▲23.8%	▲23.9%	▲6.2%	-

(単位：千USドル)

27 ※上記は業績管理用の決算整理前数値です。

2022年12月期第2四半期 赤字店舗一覧

	店舗名	2022年 第2四半期累計		備考
		売上高	営業利益 (販管費配賦前)	
1	ステラート サパークラブ (白金台)	39,423	▲27,514	
2	ブラッスリー タブローズ (代官山)	35,404	▲17,702	
3	ラ・ボエム パスタフレスカ 名古屋則武新町	15,784	▲10,278	※
4	タコ ファナティコ 渋谷	21,634	▲10,095	新店(2/1)
5	ウェディングサロン	15,095	▲6,439	
6	ゼスト キャンティーナ お台場	40,225	▲6,124	※
7	権八 NORI-TEMAKI 原宿	25,214	▲5,770	
8	バルティザン ブレッドファクトリー (南青山)	12,714	▲4,406	
9	ラ・ボエム パスタフレスカ RAYARD Hisaya-odori Park (名古屋)	24,180	▲4,368	※
10	ゼスト キャンティーナ 代官山	18,741	▲4,075	新店(4/22)
11	タコ ファナティコ RAYARD Hisaya-odori Park (名古屋)	36,680	▲3,174	※
12	LB8 (代官山)	21,660	▲2,453	閉店(4/3)
13	SUSHI権八 西麻布	52,134	▲2,260	
14	モンズーンカフェ ららぽーと愛知東郷	27,089	▲2,123	※
15	モンズーンカフェ 舞浜イクスピアリ	210,135	▲886	※
16	権八 お台場	62,956	▲473	※

(単位：千円)

※商業施設店舗につきましては、まん延防止等重点措置下において、施設側の方針により営業時間短縮および酒類提供停止等を実施しております。

注意事項

- ・本資料は情報提供を目的としており、当社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
- ・本資料における将来に関する事項は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提としております。
- ・本資料の全部または一部の無断複製や転用等をご遠慮ください。

Disclaimer

- ・ This document is intended to provide information of our company only. This information is not intended to solicit buying or selling our company's stock.
- ・ This document contains forward-looking statements which represent the company's expectations or beliefs concerning future events. The company's actual results could differ materially from those stated or implied in the forward-looking statements herein.
- ・ Please refrain from replicating or diverting this document without prior approval from Global-Dining, Inc.



<資料に関するお問い合わせ>
総務管理グループ
050-5444-9868
stock@global-dining.com